

がんとあかったときから はじめる緩和ケア



～切れ目のない緩和ケアを～

「緩和ケア」は、がんとわかった ときからはじめましょう。

がん患者さんやご家族は「緩和ケア」と聞くと
「抗がん治療ができなくなってから受けるもの」
「病状が悪くなって亡くなる前に受けるもの」と
感じられることが多いようです。

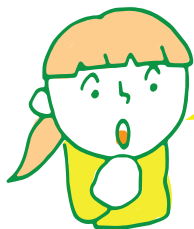
ところが、
わが国のがん対策推進基本計画では
がんの「緩和ケア」は、
「がん患者とその家族」に対して
「がんと診断された時から」
「切れ目なく」
実施される必要があるとされています。



●がんの緩和ケア●

がん患者とその家族が可能な限り質の高い生活を送れるよう、緩和ケアが、**がんと診断された時から**提供されるとともに、診断、治療、在宅医療など様々な場面で**切れ目なく**実施される必要がある。

がん対策推進基本計画（2012）

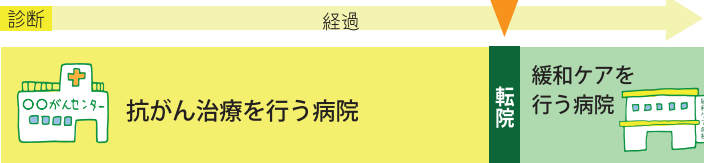


どうすれば切れ目なく
緩和ケアをうけることが
できますか？

下図の **B** のように
がんに対する治療と並行して
緩和ケアを始めれば、
切れ目のない緩和ケアを
受けられます。



緩和ケアの切れ目



がんに対する治療が終了後に緩和ケアを行う



緩和ケアの考え方が変化し、
現在では、がんと診断された時から
抗がん治療と並行して
行われることが求められています。



がんに対する治療と並行して緩和ケアを行い、状況に合わせて割合を変えていく
(※**BSC**=Best Supportive Care ベストサポーティブケア
抗がん治療が行われない緩和ケア単独のケア)



A と **B** の場合ではどのような違いが生まれるのでしょうか。
次のページで実例を見てみましょう。

切れ目のある 緩和ケア例

A 抗がん治療終了後に緩和ケアが始まった場合



「緩和ケア」の切れ目で 起こること

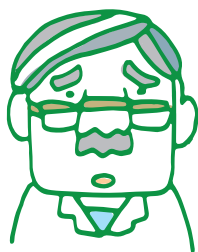
どの先生が
私を最期まで
見てくれるの
だろうか

もう治療が
できなくなって
しまった……

治療途中で
担当医や医療機関が
変わってしまって不安

この患者さんを
最期まで看取れる
のだろうか

もっと早い時期から
関わって信頼関係を
築きたかった



がんセンター担当医



患者さん



緩和ケア担当医

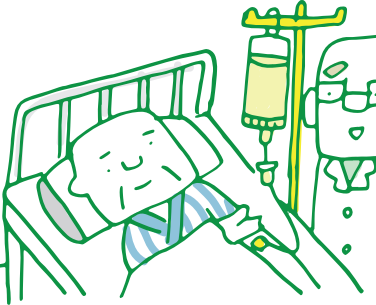
切れ目のない 緩和ケア例

B

抗がん治療と並行して緩和ケアを始める バックアップ連携の場合

がんセンターに肺がん治療で通院中

抗がん治療
中



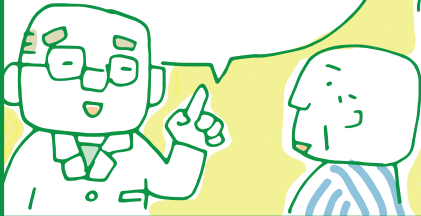
抗がん治療中も
通院できる緩和ケア外来を
ご紹介しましょう

緩和ケア
外来？



抗がん治療中から
緩和ケア外来に通うと
体調管理等の連携が取れて
安心ですよ

なるほどー



緩和ケア外来へ

日常的な
体調不良時や、
緊急時は
いつでも来て下さいね

抗がん
治療中から
二人の先生に
見てもらえ
るとは……



それから4年間



抗がん治療
がんセンター

バックアップ連携



緩和ケア

自宅

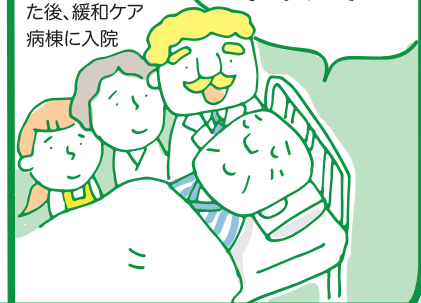
ケアマネジャーと連携
訪問看護／介護
訪問リハビリ

できるだけ
自宅で
過ごしたい

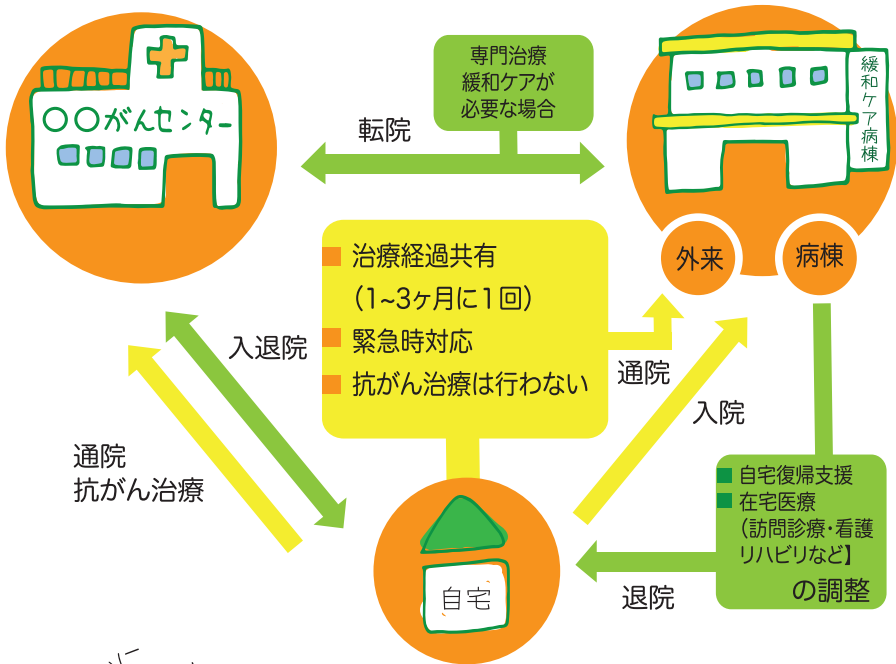


亡くなる前日まで
ご自宅で過ごされ
た後、緩和ケア
病棟に入院

ご本人の意思を尊重
できてよかった……



バックアップ連携の実際



お互いに
安心ですね！



抗がん治療中から
緩和ケア外来に
通院していただくと
通院の間にその人となりを知ることができ
ご家族との信頼関係も
築くことができます



● バックアップ連携 ●

抗がん治療の経過を共有することにより信頼関係を構築し、一人ひとりの患者がより良く生きるために Best に Support する Care (BSC) を作り上げていくプロセスのこと。

